

## 第5回登米市総合教育会議会議録

会議の名称	第5回登米市総合教育会議	
開催日時	平成29年8月10日(木)	
	午後	1時32分 開会
	午後	2時50分 閉会
開催場所	登米市迫庁舎3階 第3委員会室	
出席者氏名	市長	熊谷 盛廣
	教育長	佐藤 信男
	教育委員	畠山 信弘
	教育委員	橘 智法
	教育委員	小野寺 範子
	教育委員	大久保 芳彦
欠席委員	なし	
傍聴者	1人	
事務局職員氏名	総務部長	千葉 雅弘
	市長公室室長補佐	佐々木 清晴
	教育部長	大柳 晃
	教育部次長兼教育総務課長	佐藤 豊
	学校教育管理監	伊藤 浩
	教育企画室長	岩渕 公一
	学校教育課長	三浦 徳美
	生き生き学校支援室長	菅原 栄夫
	生涯学習課長	佐藤 嘉浩
	文化財文化振興室長	片岡 鉄郎
	教育総務課課長補佐	小野寺和伸
	議題	議題1

議題・ 発言	司会	<p><b>開会（午後 1時32分）</b></p> <p>定刻となりましたので、ただ今から、第5回登米市総合教育会議を開催いたします。開会時間は午後1時32分といたします。</p> <p>初めに、市長から開会のごあいさつを申し上げます。</p>
	熊谷市長	<p><b>あいさつ</b></p> <p>第5回登米市総合教育会議を開催するに当たり、委員の皆様には大変ご多忙のところご出席を賜り、感謝申し上げます。</p> <p>南東北インターハイのボート競技が先週、長沼ボート場で開催され、教育委員会の関係職員を中心に、補助員として高校生をはじめ多くのボランティアの皆さんにご協力をいただき、天候にも恵まれ、素晴らしい大会を開催できました。地元の選手も、佐沼高校のチームが決勝に進出して5位に入賞するなど、全国の舞台で活躍いたしました。</p> <p>また、8月8日から10日まで、姉妹都市の富山県入善町との交流事業が行われ、18人の児童・生徒の皆さんをはじめ22人の使節団においでいただきました。米山町を中心にしてお迎えし、交流を深めていただきました。</p> <p>市長に就任以来、教育委員の皆さんと懇談する機会を持てなかったことから、本日の総合教育会議についてはとても良い機会ととらえておりました。委員の皆さんから忌憚のない意見をいただき、今後の教育行政の推進に生かしていきたいと考えております。</p> <p>本日の会議の議題であります、学力向上、不登校やいじめ、あるいは教育環境整備については、私も課題が多くあると承知しております。そういう意味では、さまざまな観点からご意見をいただきたいと思っております。</p> <p>よろしく願いいたします。</p>
	司会	<p>それでは、議事に入ります。議事の進行に当たりまして、熊谷市長に議長をお願いします。</p>
	議長・熊谷市長	<p>それでは、議題に沿って進めます。</p> <p>本日の会議の議題である「信頼され、魅力ある教育環境づくりについて」であります、大きく3項目を設定いたしましたので、はじめに「学校教育における課題解決に向けた取組」及び「地域との協働による教育環境整備」について協議を進めてまいります。事務局から説明をお願いします。</p>
	大柳教育部長	<p>本日の議題であります「信頼され、魅力ある教育環境づくり」に向けた取組といたしまして、1点目の「学校教育における課題解決に向けた取組」でございます。「学力向上」、「不登校の解消」、「いじめ防止」を実現するために、教育委員会で行っております事業について、担当課長から説明いたします。</p> <p>次に、2点目の「地域との協働による教育環境整備」についてであります。ただいま申し上げました3つの課題の解決を後押しする取組といたしまして、地域の教育力を高め、活用していく取組も併せて実施して</p>

<b>議題・ 発言</b>	<b>大柳教育部 長</b>	おります。内容につきましては、学校ボランティアやコミュニティ・スクールなどありますが、事業の詳細につきましては担当課長及び室長から説明いたします。
	<b>三浦学校教 育課長</b>	〔「学校教育における課題解決に向けた取組」について、「学力向上」、「不登校の解消」、「いじめ防止」の3項目における取組を会議資料に基づいて説明〕
	<b>佐藤生涯学 習課長</b>	〔「地域との協働による教育環境整備」について、「学校・地域教育力向上対策事業」における取組を会議資料に基づいて説明〕
	<b>岩淵教育企 画室長</b>	〔「地域との協働による教育環境整備」について、「地域とともにある学校づくり」における取組を会議資料に基づいて説明〕
	<b>議長・熊谷 市長</b>	それでは、「信頼され、魅力ある教育環境づくり」について、まず「学校教育における課題解決に向けた取組」及び「地域との協働による教育環境整備」の部分で事務局から説明がありました。資料が配布されておりますので、皆さんからお気付きの点についてご意見を願います。
	<b>教育委員・ 畠山委員</b>	<p>「学力向上」については、教育研究所の運営を強化するという事です。教育研究所では、これまでも教員の資質向上に取り組んできていますが、研修事業を実施するための予算は年間30万円程度です。この予算で、約1,000人の先生を対象として指導に取り組んでいます。教育講演会のような年1回の研修だけでなく、宮城県教育委員会の指導主事の方々とも連携し、年間を通して質の高い組織的な研修事業の実施を願うものです。</p> <p>これまでも、限られた予算の中でさまざまな研修会を開催し、会場が市内であることから、午後からの開始であっても十分な内容で実施できます。こうした研修事業を、もっと密度の濃い内容・質の高い内容にしていけば、学力向上につながるのではないかと感じています。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	畠山委員から、教職員の研修について発言がありました。これまではどのような内容で実施されてきていますか。
	<b>三浦学校教 育課長</b>	これまでは初任職員研修と専門研修を実施しておりますが、教職員の資質向上を目的とした継続性のある研修については実施できていない状況です。参加対象を教職員全員とした研修が多く、今後は少人数を対象にした継続的な研修の実施により、資質の向上を図っていく必要があると考えています。
	<b>議長・熊谷 市長</b>	先ほどの説明で「創意と主体性のある研修」と説明ありましたが、そうした取組が不足していたということで、事務局としても工夫して取り組んでいただきたいと思います。教育長はどのように考えていますか。
	<b>佐藤教育長</b>	ただいま、畠山委員から発言ありましたが、これまでの研修を踏襲し

<b>議題・ 発言</b>	<b>佐藤教育長</b>	<p>ていく部分と新たに求められている研修をどのように組み合わせしていくかが課題だと考えています。特に、登米市内の学校では算数科が落ち込んでいるということで、学年を指定しての教職員の研修を実施しています。教科だけでなく学年まで対象を絞り込んだ研修ということも、限られた予算の中で内容を充実させていく工夫ではないかと思います。</p> <p>そうした点については、宮城県東部教育事務所登米地域事務所も大変協力的であり、県の指導主事も参画し、教科を特定して直接指導していただいています。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>私からも確認しますが、今年度は先進地から学ぶということで、6月に秋田県を訪問しているはずですが、視察してきた結果を報告してください。</p>
	<b>三浦学校教 育課長</b>	<p>市内の全小・中学校の校長のほか、研究員としての教員及び指導主事、事務局職員で秋田県能代市教育委員会を視察してまいりました。</p> <p>秋田県では、教育専門監を置くことにしており、拠点校に小学校1人、中学校1人の指導力の優れた教員が配置されています。その先生が、アクティブ・ラーニングといわれてきた主体的・対話的な深い学びにつながる授業体系を確立して授業を行っております。実際の授業も参観させていただきましたが、子どもたちが自ら考えて活動する、そして自ら授業を構成・構築するというような進め方になっておりました。併せて、サイクル学習も取り入れており、全国学力・学習状況調査でもトップクラスにある学校の授業を視察できました。</p> <p>視察を実施してですが、登米市としての標準的な授業のスタイルをどのように構築していくかが当面の課題ですので、それを教育委員会から指示するのではなく、学校現場で主体的に考え、どのように取り組んでいくか検討している段階です。</p> <p>各学校において、視察してきた校長だけでなく、現場の教員全員にその授業を見て考えていただきたいので、各学校に視察時に撮影した授業のDVDを配布し、全教員が見ておくように指示しています。</p> <p>さらに、8月23日（水）には指導力の優れた先生をお招きし、どのような授業を構築しているか、実際に学ぶ機会を設けております。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>学力向上については、一朝一夕に効果が出るものではないと思います。ただいま報告があったように、教育現場から意見を出してもらうような進め方は、私としても良い方法だと思いますので、そのように進めていただきたいと思います。</p>
	<b>教育委員・ 畠山委員</b>	<p>私たち教育委員も、7月に秋田県能代市教育委員会を訪問し、研修をしてまいりました。そこで学んだことを述べさせていただきます。</p> <p>1点目は、能代市の学力向上の根源には生徒指導があるということを感じました。不登校の割合は0.05%程度だということで、本当に少ない状況です。そして、子どもたちの自立・自信・希望というものを、家庭との連携の中で育てているということでした。</p> <p>2点目は、家庭との連携ということです。宿題を必ず済ませて登校す</p>

<b>議題・ 発言</b>	<b>教育委員・ 島山委員</b>	<p>る子どもは90%以上ということで、登米市のある学校で実施したアンケート調査の結果を伺った際に、宿題を必ず済ませて登校する子どもは20%程度という結果もあったということでした。こうしたことは、家庭と学校との連携の違いによるものではないかと感じました。</p> <p>3点目は、学習に対する思いが、登米市とは比較にならないほど強いことです。かつて、全国学力・学習状況調査で最下位に近いような水準で低迷していた時期があったということで、当時の秋田県内の教員が自分たちの責任であると受け止め、子どもたちの学力向上に向けて努力を重ね、県を挙げて取り組んだ結果が基盤となっていると思います。</p> <p>4点目は、授業改善をしているということです。ただいま、事務局から説明があったように、現在、全国的に推奨されている学習パターンを何年も前から取り入れてきた成果だと思っています。</p> <p>5点目は、スキル学習を徹底しているということです。全国学力・学習状況調査で出題された問題を繰り返し復習させ、全員が理解するまで指導しています。スキル学習の徹底が、学力向上の大きな要因になっているのではないかと感じました。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>島山委員から発言ありましたが、教員の学習に対する強い思いが学力向上につながったということについては、私も同感です。</p> <p>それから、宿題を必ず済ませることは当たり前とと思っていましたが、極端な例であったとしても、これまでに20%程度という調査結果があったことに驚きました。</p>
	<b>佐藤教育長</b>	<p>授業の進め方がある程度パターン化され、それぞれの教員が同じ方向で取り組んでいるということ、先月の視察研修で感じてきました。全国最下位に近いような水準で低迷していたことをきっかけとして、長い時間をかけて積み重ねてきたという実績があるようです。一朝一夕にできたものではなく、長い時間をかけて多くの教員が一体となって作り上げてきた成果が、全国でもトップクラスの水準まで学力が向上している一つの要因でもあるわけです。</p> <p>それから、これも積み重ねだと思いますが、授業を見ていると、子どもたち同士で意見を出し合い、最終的に答えを導き出していくというパターンがしっかり構築されており、子どもたち自身も自分の意見をしっかりと持っているということが分かりました。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>登米市としても、一朝一夕にはいかない取り組みなので、時間をかけて進めていく必要があると思います。そうでないと、学力向上の成果は目に見えてこないと思います。</p> <p>一方で、教員も市職員も人事異動がありますが、それによって続けてきた取組が途切れてしまうということがあってはならないと思います。</p>
	<b>教育委員・ 大久保委員</b>	<p>学力向上等について、一つは家庭環境に原因があるのではないかと思います。特に、社会情勢や保護者の就業状況が変化してきて、なかなか家庭において子どもたちに目が行き届かなくなり、学校に頼らなくてはならないということが言えると思います。放課後、子どもたちが帰宅し</p>

<p><b>議題・ 発言</b></p>	<p><b>教育委員・ 大久保委員</b></p>	<p>でも家に誰もいないとか、夏休みなどもどこかに預けなければならないような状態があります。家庭だけで解決できることではありませんので、地域ぐるみで「学力向上」に向けてのしっかりとした意識を持っていないとなかなか難しいと思います。</p> <p>いじめにしても不登校にしても、学校や子どもたちの状況において、年度ごとに特徴や傾向のようなものがあると思いますが、さまざまな専門員を配置して努力しても、まだ解決に向けた成果がはっきり見えてこないのが現状です。これまでのさまざまな取り組みが無ければ、もっと件数が増加しているのかもしれないので、改善傾向にあることを確認しながら対策を進めていくしかないと思います。</p> <p>いずれにしても、すぐ効果が表れる特効薬のような対策があるわけではないと思いますので、時間をかけて対策を工夫しながら個々の取組の成果を検証し、解決に努めていかなければならないと思います。</p>
<p><b>教育委員・ 小野寺委員</b></p>	<p><b>教育委員・ 小野寺委員</b></p>	<p>学力向上・いじめ・不登校については、一体的に考えていかなければならないと思います。例えば、学力が下がってくると登校したくなくなるということもあると思います。</p> <p>先月、能代市教育委員会を視察して、私が音楽教室を主宰して子どもたちに教えている視点から感じたことは、教える側の指導力が良くなると子どもたちも伸びないということです。楽しい授業を行うためには、教員のスキルを上げなければならないと思います。市長も教員の指導力について意見を述べられましたが、そうした取組が必要だと思います。</p> <p>能代市教育委員会を視察したときも、教員が切磋琢磨していて、教員が教員の授業を見て検証するということが実施されていましたので、学力向上によっても不登校の改善につながっていくことを期待します。</p>
<p><b>議長・熊谷 市長</b></p>	<p><b>議長・熊谷 市長</b></p>	<p>不登校の大きな要因の一つに、小野寺委員から指摘のあった「授業についていけない」ということもあるのだらうと思います。</p> <p>また、大久保委員の意見のように、かつては、地域の中のさまざまな場所で子どもたちが遊び、周囲の大人からもいろいろなことを教えられました。社会の変化で子どもたちが家に閉じこもりがちになり、地域としても子どもたちへの目配りができなくなっていると感じています。</p>
<p><b>佐藤教育長</b></p>	<p><b>佐藤教育長</b></p>	<p>学力と不登校といじめが一体ではないかということは、私も常々感じているところです。校長会等でも、いじめ防止対策・不登校の防止対策を考えるだけでなく、一番の原点は「居心地のよい学級づくり」にあると伝えていきます。未然防止対策に力を入れていかないと、学力を含めた学校生活のすべてがつかなくなっていかなくなるということを繰り返し伝え、共通理解として定着するように努めています。</p> <p>が学校生活の基礎になるのは、やはり「学級づくり」です。子どもたちが安心でき、落ち着いて授業を受けられる環境を整えるためにも、教員の授業力や指導力等の資質の向上が必要になっているということを、各校長に伝えていきます。</p>

**議題・  
発言**

**教育委員・  
橘委員**

学力向上については、登米市でも一昨年だと思いますが、佐沼小学校で算数の教科の教員指導について教育研究がなされていて、公開授業を教育委員も参観しています。参観してみて、こうした現場の教員の創意工夫によって授業の効果が大きい上がるということを目の当たりにしました。

そのときには「分かる授業から学ぶ喜びを感じる」というようなことを主眼に、子どもたちをどのように指導するか、子どもたち同士でどのように課題を解決させるかというような発表があったと記憶しています。こうした研究を算数以外の教科でも展開していけば、全体的に効果が上がると感じました。

秋田県など高い学力を維持しているところは、こうした取組も効率よく且つ充実させて展開しているものと思います。成果を上げている取組については、良いモデルとしてどんどん取り入れ、登米市らしい学力向上の取組をまとめていけばよいのではないのでしょうか。

その中で、本日も再三、意見が出されていますが、家庭の担う役割を考えることが大切ではないかと思います。自分が小学生の保護者の立場であるとき、自分の子どもをはじめ登米市の子どもたちが宮城県内とか全国ではどれぐらいの位置にいるのか、学校便り等の中でときどき見る程度であり、見ていたとしても、自分の子どものこととして切実感・切迫感を持ち、何とかしなければならないというところまでではなかったように思います。

登米市の子どもたちにはまだまだ伸びる余地があるということも、保護者の皆さんに現実のものとして伝える場面があってもいいと思います。先ほど、秋田県では教員のやる気をいかに引き出すかを強く意識しているというような意見がありましたが、登米市においては家庭の学力向上に対する考え方を教員の意識改革と連携して強くしていくことにより、底上げにつながっていくのではないかと思います。

教育委員会としても、平日の放課後や土曜日などに、退職した校長先生を中心にして勉強をみていただく学習教室が行われ、授業以外にも子どもたちの学ぶ機会が設けられています。学習塾を選択される家庭もありますが、教育委員会としても学ぶ機会の創出については更に充実させてほしいと思います。

**議長・熊谷  
市長**

秋田県の取組が良い例として話題に上っていますが、秋田県でも登米市でも、子どもたちはそれほど違うわけではなく、教育環境等で差が出ているのではないかと思います。

橘委員の意見のように、学校だけの努力では思うように改善することが難しいのではないかと思います。家庭にも、子どもたちの学力向上については担うべき役割があると思います。子どもたちが、家庭においても勉強できる環境を整えていただくことが必要なのではないかと思います。

それから、自分で問題が解けたときの喜びが子どもたちにとっては大切で、それが次に進むきっかけになり、学力向上につながっていくのではないかと思います。教員もそういうことを意識して頑張っていると思いますが、教育委員会からも指導をお願いします。

<b>議題・ 発言</b>	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>ほかに皆さんからご意見はありませんか。</p> <p>「なし」の声あり</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>ご意見がないようですので、次に、3点目の「児童・生徒の実情に応じた望ましい教育環境整備の推進」について協議を進めてまいります。事務局から説明をお願いします。</p>
	<b>大柳教育部 長</b>	<p>それでは、3点目の「児童・生徒の実情に応じた望ましい教育環境整備の推進」についてであります。ただいま、2つのテーマで「学校の教育力」、「家庭の教育力」、「地域の教育力」について、議論をいただきました。そうした「教育力」を生かすような学校の教育環境について、</p>
	<b>岩淵教育企 画室長</b>	<p>（「児童・生徒の実情に応じた望ましい教育環境の整備」について、会議資料に基づいて説明）</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>それでは、「児童・生徒の実情に応じた望ましい教育環境整備の推進」について、事務局から説明がありました。資料が配布されておりますので、皆さんからお気付きの点についてご意見をお願いします。</p>
	<b>教育委員・ 島山委員</b>	<p>複式学級になるような学校を中心に、学校の適正規模や適正配置を考えていくということは、説得力のある進め方だと思います。保護者の皆さんや地域の皆さんとの意見交換を重ねる中で、少しずつ実現していくのではないかと感じました。</p> <p>登米市の適正規模の考え方は、推進するための条件が厳しく設定されているように感じます。例えば、秋田市では平成20年に検討委員会を開いて適正規模の考え方を提案していますが、適正規模の下限を設けています。小学校では1学年1学級で、要検討としているのは複式学級により1学年1学級未満になると見込まれる場合で、望ましい教育活動が行えないと考えているようです。同じように、白石市では、小学校の適正規模の下限を複式学級にならない学校としており、1年生を含む場合は1学級が6人以下にならない規模としています。秋田市と同様、複式学級が予想される学校から適正規模を考えていくということです。</p> <p>私は、適正規模の考え方に安全・安心な学校施設の確保ということも加えなければならないと考えています。</p> <p>登米市の学校再編の経緯について合併の少し前からみていくと、小学校では8校が再編により減少しています。これは、宮城県内では、栗原市に次ぐ数ではないかと思えます。そういう点からも、ただいま説明がありましたように、保護者の皆さんや地域の皆さんとの話し合いを重ね、徐々に進めていくという考え方はよい進め方だと思います。</p> <p>学校の規模が小さくなっている地域は、地域の皆さんの絆が非常に強い傾向にあると思えます。諸行事への参加率も非常に高く、学校の運営に対しても物心両面の協力を惜しまないという地域の特性があると思えます。学校にとっても、地域の皆さんは良き理解者であり後援者でも</p>

<b>議題・発言</b>	<b>教育委員・ 島山委員</b>	<p>あります。こうした地域性に十分配慮し、再編によって学校がなくなっても、地域の活力が持続していくことを考慮しながら手続きを進めていくことが大切だと思います。今後、学校の適正規模を考えていく場合、これまで再編により学校がなくなった地域について、その後の地域の変化や住民の考えの変化なども調査した上で進めてほしいと思います。</p> <p>学校の教育環境の整備については、そこで学ぶ子どもたちのことを第一に考えて進めるものですが、教育委員会としては地域とともにある学校づくりを進めているということも考慮して進めていただきたいと思います。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>このテーマについては、委員の皆さんから意見をいただきたいと思います。</p>
	<b>教育委員・ 橋委員</b>	<p>学校が地域に果たす役割を考えれば、地域のコミュニティの中心であるとか、災害等の際に避難所になるというような防災拠点であるなど、さまざまです。そういう意味では、学校数は多いほうがよいと考えられるのが一般的です。</p> <p>再編により学校がなくなってしまった地域の状況の変化を調べることについては、学校の適正規模・適正配置を考える上で、これまで気付かなかったことを気付かせてくれる可能性があると感じました。</p> <p>何のために学校を再編するのかといえば、やはり子どもたちの教育環境をより望ましいものにするということが大前提だと思います。小規模であるとか、それよりも児童・生徒数が少ない学校については、改善していくことが必要ではないかと思います。</p> <p>教育委員会議においても、これまで時間をかけて話し合い、事務局からも何度か報告を受けてきました。その中で、小規模をさらに下回る規模の学校については、再編を進めていくというように協議してきたと思っています。</p> <p>私が住んでいる津山町の場合、小学校は柳津小学校と横山小学校の2校です。幼稚園はつやま幼稚園だけですが、小学校では2校に分かれます。どちらの小学校も、児童数が100人に満たない小規模校です。現在の保護者の皆さんの一部には、幼稚園では一緒だったのに、小学校ではどうして別になるのだろうかという意見もあります。</p> <p>小規模校にも良さがあ、必ずしも子どもたちの教育環境として不適合であるということはないと思いますが、さまざまな運動をするにしても、集団活動・集団生活を行うにしても、一定の児童数が確保されているということが必要なのではないかと思います。</p> <p>小学校については、事務局から説明ありました基本的な考え方のおり進めるのが望ましいと思います。中学校をどのように考えるかについては多くの課題があり、教育委員会としても各学校を訪問して保護者の皆さんや地域の方々から意見を伺ってきているので、メリットやデメリットを勘案しながら、今後の進め方について見定める時期にきているのではないかと思います。</p>

**議題・  
発言**

**教育委員・  
大久保委員**

事務局から説明ありました基本的な考え方について、方向性としてはこれでよいと思います。学校統合により学校が遠くなる子どもたちと、そのまま同じ学校に通うことになる子どもたちと、地域差が生じることとなりますので、その差をどのようにして整理していくかが大切になると思います。

児童・生徒の人数だけを基準にして再編を進めていくことには、問題が残ると感じています。例えば、小規模校であっても予算と人材を配分することにより日本一の学校を目指すとか、そうした学校づくりを通してそこに通学させたい人たちが移住してくるような地域づくりを目指すとか、全国に事例として発信できる水準まで学校や子どもの教育に対する事業として取り組むことが考えられますが、地域の方々との協議や市の財政面での整理が、これまで以上に必要になると思います。

登米市には、広い居住空間や豊かな自然環境がありますので、ここで学ばせたいという学校づくりや教育環境の整備については、市外からの移住希望者への発信という意味も含めて考える余地があると思います。

**教育委員・  
小野寺委員**

学校再編は避けて通れないと考えています。施設の老朽化が進んでいる学校もあると思います。

小学校の配置は町域に1校と考えますが、中学校にではどうしても別な課題があると思います。石越中学校の例では、全校生徒数が佐沼中学校の1学年ぐらいの生徒数だと思っています。そうすると、スポーツにおいては取り組めない種目が出てきます。幼稚園から中学校卒業まで同じクラスということになると、いろいろな生徒とのかかわりという経験もできません。先生方にしても、学校の中でお互いに切磋琢磨するというような機会が不足してくるのではないかと思います。

それから、事務局の説明にもありましたが、学校再編の話し合いを保護者の皆さんだけでなく地域の方々も交えて持つような場合、意見交換の中で、児童・生徒が多く活発に学校生活が展開されていた当時のお話をされ、再編に反対される場合も多いと思います。これまで再編が行われた学校で子どもたちに話を聞いてみると、一緒になって良かったという感想が多かったと思います。

また、これから意見交換をしていく場合には、子育て支援課と連携して子育て支援センターで話し合いを持つとか、乳幼児健診の場をお借りして保護者の皆さんのお話を聞くようなことも工夫していただきたいと思っています。5年後、10年後の学校の姿ということになると、乳幼児の保護者とかこれから子どもが生まれる皆さんにも、一緒に考えていただくようにしながら進めていってほしいと思います。

**佐藤教育長**

学校再編については、これまで保護者の皆さんや地域の方々からさまざまな意見をいただきました。いただいた意見をまとめてみると、保護者の皆さんは、教育力の効果について、プラス面とマイナス面とを比較しながら考えているように感じました。地域の方々は、地域の活力のような部分が減少していくのではないかとということと、子どもたちのためには再編したほうがいいのかというところで葛藤があるようでした。

**議題・  
発言**

**佐藤教育長**

それぞれに考え方には違いがあり、教育行政においてどのようにそれを整理していくかということを考えてみたとき、現在、登米市教育委員会において推進しようとしているコミュニティ・スクールにおける学校運営協議会が大きな力になっていくのではないかと思います。

再編ありきではありませんが、教育行政の中ではそれも含めて地域とともに学校の姿を考え、再編を検討する場合には再編後の学校像だけでなく、その後どのような地域づくりをしていくかということも併せて学校運営協議会において話し合っておくということが必要になると感じました。

**議長・熊谷  
市長**

私は、教育環境については、学校の統合ありきではないと考え、事務局にも伝えていきます。児童・生徒の数だけを基準に統合を進めようとは考えておりません。

皆さんから発言があったように、複式学級になる場合にどうするかということは考えていかなければなりませんし、校舎がだいぶ古くなっているということも考慮していかなければならないと思います。

私は、皆さんの意見にありました「地域とともにある学校」ということを非常に大切に考えています。地域から学校がなくなるのは住民にとって非常に大きなことです。これまでの統合により学校がなくなった地域の中には、地域力が大きく減少したと感じている住民が多いと感じています。廃校になった校舎やその跡地が別の施設の整備や企業の進出のようなことで活用されていけばいいのですが、廃校になった校舎が活用されないまま残っているような場合、とても寂しいと感じているようです。地域から学校がなくなるということは、地域に住み続ける方々にとっては非常に寂しいことなのです。

教育環境の水準を向上させていくことについても、学校再編と併せて考えていかなければならないと思います。これまで、学校再編については、教育委員会においても多くの議論が交わされてきたと思いますが、私としてはこうした考え方を基本に、これからも教育行政に対する意見を述べさせていただきたいと思っています。

中学校の統合については、まだ検討すべきではないと考えています。各町域から中学校がなくなるということは、小学校がなくなる以上にとても寂しいことだと思います。市民の皆さんの中にも、学校統合によって中学校がなくなると感じている方がおられます。中学校における生徒数の減少については、部活動などでマイナスの面もあると思いますが、私はメリットのほうが大きいと思っています。

中学校については、教育委員会から別な状況が報告されるとか、地域の方々から統合を強く求められるような場合を除き、各町域に中学校1校は必要だと考えています。

小学校については、複式学級になる場合のことを考えると、事務局から説明のあった基本的な考え方とおおりだと思います。それでも、規模は小さいながら輝くところのある学校という姿も、一つの考え方だと思います。

本日の総合教育会議においては、委員の皆さんに率直に発言いただき、良い意見を聞くことができました。登米市の子どもたちの教育環境

<b>議題・ 発言</b>	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>の整備のために何をしていくべきか、意見の交換を通して考える機会となりました。</p> <p>なお、現在、幼保一体ということで認定こども園を各町域に整備し、児童クラブや児童館も充実させていきたいと考えており、子育て支援についてはしっかり進めていきたいと考えています。</p> <p>将来の人口予測で少子化の進行が指摘されていますが、そういうことにならないよう、若い世代の定住対策にも取り組み、登米市の子どもたちのために頑張っていきたいと思います。</p>
	<b>教育委員・ 橘委員</b>	<p>教育の現場については、柔軟性のある対応が必要な面もあり、例えば、学校再編についても、5年単位ぐらいで方針を見直さなければならない状況があるかもしれません。一方で、財政面などを考慮すれば、数年単位で統合を繰り返すことがないように、20年ぐらいは学校が存続していくような構想により進めてほしいと思います。</p>
	<b>教育委員・ 大久保委員</b>	<p>人が住みたいと思うところに街ができるのではないかと思います。登米市も、住んでみたいと思う人が集まるまちづくりをお願いします。教育行政の進め方もそれだけでいいというわけではありませんが、そういった視点も一つの考え方ではないかと思います。</p>
	<b>議長・熊谷 市長</b>	<p>住みたいと思う人が集まるように、登米市のまちづくりについては肝に銘じて取り組んでまいります。</p> <p>委員の皆さんからご意見がなければ、以上で議題につきましては終了とさせていただきます。大変ご苦労様でした。</p>
	<b>司会</b>	<p>それでは、以上をもちまして、第5回登米市総合教育会議を終了とさせていただきます。</p>
		<p><b>開会（午後 2時50分）</b></p>